

『第65回社会を明るくする運動』

7月2日(木)、東通小学校体育館において「第65回社会を明るくする運動」が開催されました。辻博勝青森保護観察所長からは内閣総理大臣のメッセージが、中村満雄むつ下北地区保護司会長からは青森県知事のメッセージが、それぞれ東通村長へ贈られました。

「社会を明るくする運動」は、すべての国民が、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない地域社会を築こうとする全国的な運動です。

伝達式は、保護司・更生保護女性会、東通中学校の生徒・教職員など、総勢238名が参加して行われました。

東通中学校を代表して生徒会長の弓 理慧さんが、「いじめ」をテーマに、一人一人が「いじめ」について考えること、「いじめ」を生まない生活のために行動宣言をし、意識して生活することに全校で取り組んでいると発表しました。続いて吹奏楽部のミニコンサートが行われ、演奏のほか校歌を生徒全員で披露し、「社会を明るくする運動」へ積極的に参加しました。

伝達式の後、この運動の啓発のため、保護司と更生保護女性会で構成された「第36回下北一周愛のキャラバン」隊が村内北通り地区をパレードして広報活動を行いました。

一人一人が犯罪や非行のない地域社会を築こうとする意識を持つことが大切です。更生に理解を深め、安全に安心して暮らせる地域社会を築きましょう。



東通村 ジオパーク 探訪

先月号では、大湊地区民生委員児童委員協議会の皆さんをお迎えしたジオツアーをお伝えしましたが、今号からは、そのツアーでどこをガイドしたのか、いったい東通村の何がジオポイントなのかをお伝えします。

まず向かったのは、尻労漁港の山手を囲む断崖。漁港の奥はそびえ立つ断崖で行き止まりとなっていて、尻労の語源がアイヌ語の「シリ(=山)」と「ツカリ(=手前)」であることを感じさせます。

この辺りは、桑畑山を挟んで反対側の尻屋地区と同じく、石灰岩と“チャート”という岩石が至る所に露出しています。

実はこの2つの岩石、2億年ほど前に日本列島の地盤を形作った重要な岩石ですが、国内の他の地域では山や海に分け入らなければ見られないような岩石。尻労地区から尻屋・岩屋地区にかけては、こういった日本を形作った岩石が「車を降りてすぐ見られる！」…というのが何よりのジオポイント！つまり、観光客が訪れやすいだけでなく、学校の授業や生涯学習の場としても面白いスポットなのです。

では、石灰岩はともかく、チャートとはいったい何なのか？

実は、両方とも、2億年以上も前の海底でできた岩石。石灰岩はサンゴや貝などの死骸が堆積してできました。一方のチャートは、放散虫という海のプランクトンなどの死骸が堆積してできました。

ではなぜ、海底でできた岩石が尻労や尻屋にあるのでしょうか？ ⇒ (26ページ裏表紙へ続く)



尻労漁港の突き当たりから山側を望む。

一段奥の林の向こうは、旧石器時代～弥生時代の「安部遺跡」がある洞窟になっています。